

紀伊國ノ風俗、不律義第一ニ而、陽氣甚シクイヤシク、上ト而ハ下ヲ貪リ、下ハ上ミヲアナドリ、法令ヲ不入而更ニ言語ニ絶タリ、牟婁日高在田郡ノ人、別而我慢ニシテ、意地ヲ強ク立ルカト思ヘバ、亦弱ク而詰ル處之奥意、不極シテ、譬バ昨日味方タリシ人之弱身ナレバ、今日ハ亦敵トナリ、其從フ處ノ人ニ大事有ト見レバ、サスガ本ヘモカヘル事ヲハチ、頭ナシノ一揆ヲモ企ル如クノ風俗、言舌ニ顯然ト而備レリ、因茲見之バ、郡々ニ名主ト號シ、庄司殿ト是ヲ呼テ、是ヲ主君ノ如ク仰ギ、勢ヲ得ル時ハ是ヲ先立、後ル、時ハトモニ從テ蟄居スルノ類、治承之亂之時ヨリ而聞傳、其アリサマヲ見ルニ誠ニ、思ヒ當レリ、其氣ノカタクヘナク、不頼カラ事、擧テ難云、扱亦伊都名草那賀海部郡之人ハ、南郡ヨリハ氣柔也、然レドモ差掛リタル意地ノミニテ、是モ詰リタル心、微塵モ無之トイヘドモ、善惡ヲ知リテ、多クハ惡意ニ從フ程ノ儀ハ無之ト見ヘタレドモ、慾深キ事、日本ニモ雙ブ國有間敷キ也、都而武士之風俗、身ヲ上分ニ持チナシ、常ニ饗應ヲ盡而放逸ヲ不知、唯心之行處ニ從テ、利口ヲ面前ニ顯シ、律儀ト云コト實ト云コトヲ露ホドモ不用而、シカモ武之翫ブ處ノ事ヲバ如形雖務、終ニ無實シテ、其業數ヲ覺テ耻ヲカク之人、千人ニ九百九十人、如形兩伊丹石州之五ヶ國ヨリハ、意地強シ、碁石、蕨、萩ハ吉、

名所

〔日本鹿子十三〕同國伊紀中名所之部

紀の川 吉野の末也、西へ流たる川也、かぶろの宿と云所より、五町計北也、此宿ハ高野山へ三リ也、不動坂と云へ上る也、

巨勢野 春野冬野といふ所もちかし略○中

紀の關 かぶろの宿と高野と中間に有之と云々、また蟻との渡りと云所也共云、

高野山 京より二十九り、大坂より十六り也略○中

玉川 金剛三昧院より奥の院へ一り也、彼院より南に玉川と云橋あり、奥の院西向也、又玉川の